

ぬまじり憲法9条の会

岸田首相 憲法改正 自衛隊明記に向け指示

岸田総理大臣は8月7日、自民党の憲法改正実現本部の会合で、憲法への自衛隊の明記について、今月中に論点整理を行うよう指示した上で、国民投票を行う際には「自衛隊の明記」と「緊急事態条項」の2つの論点を問いたいという考えを示しました。

党内からは、今回の指示は来月の総裁選挙を意識したものでないかという見方も出ていて、選挙をにらんだ動きが活発になる見通しです。

新聞報道・見出し

(日経) 首相「憲法に自衛隊明記を」「9条改正」

論点整理、月内を指示

総裁再選に向け意欲

(東京) 首相「月内9条論

点整理を」 改憲発議

自衛隊明記など来月の

総裁選前に唐突表明狙いは

日米同盟強化

(赤旗) 「国民投票で自衛隊

明記を」 首相、9条改

憲暴走 反対運動拡大は

急務

*テレビ等では余り報道されていない

岸田首相は改憲を
する資格はない
政権延命の改憲
は許るさない

国会の憲法審査委員
会では、緊急事態条項

について、改憲勢力は改憲
の突破口に利用するために

検討してきたが、岸田首
相が自民党の総裁選前に

して突然、緊急事態条項

と「9条に自衛隊明記」を、

国民投票することを指示
しました。

223号
2024年
9月1日発行
事務局
神田健夫
055-921-7755

総理大臣としての岸田

首相は自民党の裏金問題

等で国民の支持は20%

程度しかないのに、この内閣

が憲法改正をする資格は

ない。

さらに、憲法を尊重し擁

護する義務(憲法99条)

がある岸田首相が、国会で

の審査会にまで介入するこ

とは許すことはできない。

憲法9条に「自衛隊」
明記は許さない

敗戦から79年、敗

戦の8月に日本国憲法、

戦争放棄の9条に「自

衛隊明記」し、国民投

票を指示したことに、

太平洋戦争で亡くなっ

た310万人の国民、

遺族の悲しみ苦しみを

無視する発言に抗議し

ます。私たちは改憲勢

力に負けない運動が求

められています。

岸田不出馬で
自民党が変わる？

岸田総理は「自民党

が変わることを示す最

もわかりやすい最初の

一步は私が身を引くこ

とだ」と述べ、自民党

総裁選挙に立候補しな

い意向を表明しました。

岸田首相が退陣して
自民党の再生を狙う

岸田政権は裏金問題だけ

でなく、物価高騰を野放し、

沖繩の性被害者も守れず等々

で、国民の内閣不支持で引

責不出馬です。

安倍路線引継ぐ
総裁選、出馬候補者

今回の総裁選に出馬する若

手候補者も物価対策や裏金

問題の責任には触れず、憲法9

条に「自衛隊を明記」を声高に

主張し、自民党は生まれ変わ

る、世界をリードする国にす

ると口先だけの表明をしていま

す。

日本を戦場にするな

戦争させない 憲法壊すな

沼津の会」主催

日時9月15日(日)

13時30分

会場 沼津中央公園

集会・スタンディング

○敵基地攻撃能力の保有

は、日本が「戦場」に

○9条改憲許さない

○イスラエルはガザでの

「虐殺」をやめよ

○ロシアはウクライナ侵

略をやめよ

雨天中止

土曜日・駅頭

スタンディング

場所・JR沼津駅南口

井上靖記念碑前

時間 13時30分〜14時

15分 毎週土曜日

プラカードを持って立つて

も、腰掛けても参加出来ます。

雨天中止

あなたの思いを

行動に

進行する戦争体制づくりに反対し、その加速化を狙う明文改憲の危険性を学習し市民に訴えよう！

裏金問題で危機に陥りながら、岸田政権は憲法を蔑ろにして戦争体制づくりを強行しています。

通常国会では経済秘密保護法、米軍との共同軍事行動のため統合戦司令部を設置する防衛省設置法改正、「有事」に際して地方自治体の首長への「指示」権を認める地方自治法改悪が通りました。

全国の自衛隊基地では米軍との共同訓練、ミサイル配備、弾薬庫創設、要塞化が進み、民間空港、港湾の軍事利用のため特定利用空港・港湾指定もなされました。2015年戦争法を新たな段階に踏み入れる攻勢が進行しています。

さらに、大統領選を控えて対中軍事同盟網を急ぐアメ

リカの要請のもと、日米2+2では在日米軍司令部の統合軍司令部への改組が表明され、日本の統合司令部発足を認め、事実上自衛隊が米軍指揮下で戦闘を行う体制が確認されました。

しかし、憲法は死んではいません。戦争体制づくりを加速するためには、9条自体の改変が不可欠となります。

「任期中の改憲」という岸田首相の公約が挫折を余儀なくされたため、自民党は、総裁選を利用して明文改憲のための体制と戦略を立て直し、この秋から新しい「看板」のもと、改憲に乗り出そうとしています。

この夏から秋が大事です。軍拡と改憲策動の狙いと危険性を学ぶ学習会を持ちましょう。戦争体制が決して日本とアジアの平和をもたらさないことを市民に訴える行動に立ち上がりましょう。

「ひとり街宣」

今回の東京都知事選挙の大きな特徴のひとつは「ひとり街宣」だった。

概算で3000人以上の市民が、全都700か所以上の駅頭などで「ひとり街宣」にたった。

ネットにピン止めされたマークは重なり合って、真っ赤になった。北海道から九州までひろがった。みんな蓮舫勝利のためににかしたかった。

「ひとり街宣」はこれが初めてではない。岸本区長を誕生させた杉並の有権者が先の統一地方選挙で取り組んだ。またそれよりずっと前、1965年頃、「アメリカはベトナムから手をひけ」と書いたゼッケンを着けて通勤一人デモを始めた人がいたのが何かで記事になったのも覚えている。

でも今回のように大規模

に、市民が自分で立ち上がった「ひとり街宣」がとりくまれたのは過去に類例がない。

蓮舫候補は都知事選のFINAL LINEで例の「寅子」のことは引いた。「あげた声は残る。その声は必ず誰かの力になる。だから私は声をあげ続ける」と。そう思う。

ちよつと良いニュース

北海道警「やじ排除」女性への賠償確定 原告男性は敗訴 最高裁

2019年の参院選期間中、街頭演説をしていた安倍晋三首相(当時)にやじを飛ばして、道警に排除された札幌市の男女2人が道に計660万円の損害賠償を求めた訴訟の2審は、男性は敗訴、女性に対する道警の対応については違法と認めて55万円の支払いを命じた。

原告と、北海道の上告審で、最高裁第1小法廷は道側と原告男性側の上告をいづれも退ける決定を出した。

その結果、男性を敗訴としつつ、女性に対する道警の対応については違法と認めて55万円の支払いを命じた2審判決が確定した。

「やじは表現自由」確定

